

〈研究ノート〉

教育実習指導における「指導計画案」の効果的な指導に関する研究
—「指導計画案の書き方の手引き」の作成と試験的運用—

前 田 舞 子・上 萬 雅 洋

Maiko MAEDA, Masahiro JOMAN :
A Study on the Effective Training of “Childcare Plans”
in “Guidance of Teaching Practice at Kindergarten”
—Making “The Guide on How to Write Childcare Plans” and its Trial Use—

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第76号 抜刷

2018年1月

〈研究ノート〉

教育実習指導における「指導計画案」の効果的な指導に関する研究 —「指導計画案の書き方の手引き」の作成と試験的運用—

前田 舞子¹・上 萬 雅 洋¹

Maiko MAEDA, Masahiro JOMAN : A Study on the Effective Training of "Childcare Plans"
in "Guidance of Teaching Practice at Kindergarten"
—Making "The Guide on How to Write Childcare Plans" and its Trial Use—

本研究は、幼稚園教諭の養成課程における「教育実習指導」において、「指導計画案」の作成に関する指導を効果的に行うために、「指導計画案の書き方の手引き」を作成し、実際に短期大学生に対してそれを使って指導を行った結果を示したものである。さらに、その結果を踏まえて、指導上の課題と「指導計画案の書き方の手引き」の改訂の方向性を示す。

キーワード：教育実習 教育実習指導 指導計画案

はじめに

幼稚園教諭の養成課程における「教育実習指導」は、幼稚園での教育実習を行うにあたって必要な知識（実習の意義・目的・内容・方法等）や技能を学ぶことを目的としている。そして実習終了後には、実習の反省を具体的に整理した上で、実習生が今後における自身の課題を明確化することを目指す。

ただし、限られた「教育実習指導」の時間の中で、それら全ての知識や技能を身につけることは容易ではない。現に、これまでの教育実習における評価を踏まえると、実習日誌の作成や指導計画の立案に課題を認めざるを得ない。

特に、指導計画案（以下、指導案と略記）については、立案する意義や記入方法等は十分に指導されてきたものの、実際に立案する過程は、実習生個人に任せられており、提出された指導案を担当教員が個別に添削する形での指導に留まっていた。そのた

め、指導案についての体系的な指導や、実習生が実際に記入する経験は乏しい現状であった^{注1)}。

そこで、本研究では、「指導計画案の書き方の手引き」（以下、「手引き」と略記）を作成し、指導案を立案するための「教育実習指導」において試験的に「手引き」を使用した結果を検討する。それをもとに、今後の「教育実習指導」での活用可能性を探ることを目的とする。なお、本稿の執筆については、はじめに・1・3・4・おわりにを主として前田が、2・資料作成を主として上萬が担当した。

1. 指導計画案を作成する困難さ

実習生にとっての指導案の困難さについては、すでに多く指摘されてきた¹⁾²⁾³⁾。例えば、森木⁴⁾は、実習生が感じる困難さに関して以下のように整理している。まずは、保育を生み出すためには、必要な手順を踏まなければならないこと。すなわち、子どもの実態を把握し、その姿に沿ったねらいや内容を定め、それらが具体化する場や方法を考え、保育の展開をシミュレーションするという一連の手順であ

1 鳥取短期大学幼児教育保育学科

る。養成段階にある実習生にとっては、これらの手順を全て踏むことは非常に困難である。次に、書き直しを含めて書くことに時間がかかる点である。特に、書くことが苦手な実習生には、時間をかけて書いたものに指摘が入り、何度も修正を重ね、さらに書くことへの苦手意識が芽生えるという、負のスパイラルに陥ってしまうのである⁴⁾。

鳥取短期大学における2年次6月の実習生は、1年次に教育実習（鳥取短期大学附属こども園）を1回、保育実習（学外保育所）を1回経験しているものの、指導案を作成した経験は乏しく、独力で完成させるにはかなりの時間を要する。当然のことながら、「教育実習指導」以外に、日常の授業の中で指導案の作成についての指導は行われているが、教育実習の事前準備としての指導案を作成するのは「教育実習指導」においてである。そこで、本授業において効果的に指導を行い、より質の高い指導案を作成させるために、「手引き」を作成した。

2. 「指導計画案の書き方の手引き」作成にあたって

保育士または幼稚園教諭を目指す保育学生にとって指導案の作成の上達は必須であり、保育学生にとって最も苦慮するものである。しかし、現行の教科書や専門書の間では、具体的な内容で指導案を例示してあるものは見かけるものの、筆者は実際の指導案全ての書き方を的確に示したものは見たことがない。筆者も保育学生時代、または保育士時代に何度も書いては教員や先輩保育士に添削を受け、数年かかってようやく一人前の指導案に仕上がっていく、という経験をした。また、多くの保育士が同じような経験をしているし、実際の保育現場からも、「若い人が指導案などの書き物がなかなか書けない」、という声をよく聞く。

そこで、実習生が理解を深めながらより実践的に優れた指導案が書けるようにしたい、との思いで「手引き」を作成することにした。

その中でも最も重要視したのは「子どもの姿」で

ある。指導案を作成する際、本学の指導において今までは「子どもの姿」を軽視している傾向にあったと言える。例えば、実習の初日に部分指導等の指導案を提出する際、「子どもの姿」をよく知らないままに活動やねらいを実習生が個人の判断で決め、指導案を書いて持っていくという形式である。

しかし、実習中の訪問指導の際に現場からよく聞かれる声として、「子どもの姿を知らずに指導案を作成しているため、現在の子どもの遊びの傾向や欲求の流れなどと噛み合っていない活動及び指導案となっている」との指摘を受けることがある。

実習という短期間の中で子どもの姿を把握する事はなかなか大変である。子どもの活動は日々の連綿とした生活の中の歯車のようなものであり、継続的観察の視点が大切であると考えられる。また、十把一絡げに子どもの年齢から想像して指導案を書くのではなく、それぞれの園ごとにその姿を把握して指導案を書くのが本来のあるべき姿である。

そこで、実習前に子どもの姿を園に確認するなり、オリエンテーションの際に実際に自分の目で確かめるなりするよう指導を加えた。その際に、子どもの姿を客観的且つ的確に捉えるために保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から「内容」の部分を取り出して疑問形式で提示した。

3. 「手引き」の試験的運用

作成した「手引き」を実際に使用しながら指導を行い、その結果を確認するために、「教育実習指導」の時間内に実習生に対して「手引き」の説明を行った。指導案の提出期限を2週間後とし、それまでに「手引き」を参考に指導案を完成させるよう指示をした。実施日時や具体的な指示内容については、以下の通りである。

(1) 実施日時：平成29年5月1日（月）

(2) 対象者：鳥取短期大学幼児教育保育学科

2年生（6月教育実習対象者48名）

(3) 指導案の内容に関する指示：

担当予定のクラスで行う部分実習指導案の作成（内容は自由．時間は45～60分．）

(4) 指導案の提出期限：平成 29 年 5 月 15 日（月）

※なお、本授業の担当者は筆者である．

「手引き」の説明にあたっては、実際の記入例を見せながら進めた．1つひとつの項目についての説明を行った後、演習形式で実際に記入する時間をとった．手引きの記入は、「子どもの姿」から順を追って空欄を埋めていき、最後にそれを指導案用紙に書き落とす形となっている（具体的な過程については、章末資料を参照のこと）．その過程においては、指導案全体の流れやねらいを常に意識しながら書けるよう工夫されている．

さらに、全体的な流れをよりイメージしやすくするために、本学科所定の様式で指導案の見本を作成して配布した．その際、「子どもの活動」の欄では、主活動には「◎印」、その他の活動には「○印」「・印」を記入し、全体の構成を明瞭にすることを求めた．

4. 提出された指導計画案の分析・検討

実習生から提出された指導案について、その内容の検討を行った．なお、この検討は、学生への教育を目的としたものではなく、「手引き」を使用した指導の課題を導き出す研究の一環として行った．

「手引き」を作成した意図を踏まえ、3つの基準を設定し、それぞれについて3段階（A, B, C）にて評価をした．以下が、今回の評価基準である．

- ・基準 1：活動の流れ（特に、子どもの活動）が分かりやすく、主活動が明確である．
- ・基準 2：発達段階に合った内容を選択し、ねらいを設定している．
- ・基準 3：子どもたちの様子を想定し、それに適した内容・ねらいとなっている．
- ・評価 A：概ねできている
- ・評価 B：不十分である

・評価 C：ほとんどできていない

上記の基準によって実習生の指導案を評価した結果を、表 1 に示す．

表 1 基準ごとの評価結果（人数）

	評価 A	評価 B	評価 C
基準 1	37	8	2
基準 2	41	6	0
基準 3	33	4	10

上記の結果は、指導案の出来栄を総合的に評価したものではなく、あくまで「手引き」の意図・ねらいの達成度を検証するために評価したものである．そのため、活動内容やねらいの精度は不十分（改善の余地がある）であっても、「手引き」に沿って正しく記入がなされていれば、評価 A としている．

(1) 基準 1 について

主活動を中心に指導案全体を構成することができる実習生が多かった．そのため、例年の指導案に比べ、活動内容が整理された印象がある．

ただし、導入については課題が多かった．主活動に入る前に歌や手遊びなどの導入を計画している実習生が多数だが、主活動にスムーズに移行できる導入とは言い難いものが散見された．子どもの注意を惹くだけの単純な導入ではなく、「なぜそのような導入が必要であるのか」の意味を考え、計画を立てられるような指導が必要であろう．

(2) 基準 2 について

内容とねらいについては、日頃の学習の成果あるいはテキストを参照して記入するため、対象年齢の発達段階を逸脱したものは見られなかった．ただし、評価 B を受けた実習生については、ねらいが曖昧であったため再考の必要がある．

上記の結果を踏まえると、発達段階については、他のテキストを併用することで十分に対応可能であったと考えられる．ただし、ねらいの設定方法に

については、さらなる指導が必要である。

(3) 基準3について

2. において既に述べたように、これまでの指導案作成に関する指導では、「子どもの姿」を踏まえた活動内容やねらいを設定することができにくかった現状がある。そこで、「手引き」説明の際、「子どもの姿」を的確に捉えた上で指導案を作成することの重要性を強調した。評価Aを受けた実習生は、子どもたちの様子についての記述と、設定された内容・ねらいとが繋がりをもち、子どもたちの現状に適した内容・ねらいとなっていた。評価Bの実習生については、子どもたちの様子についての内容が薄い、あるいは子どもたちの様子と内容・ねらいとが関連性に乏しい状態であった。評価Cを受けた実習生は、子どもたちの様子が未記入（実習園で様子を見ることができなかったこと、何らかの事情により子どもたちの様子を想定できなかったことが考えられる）であった。

実際に実習生が子どもたちの様子を観察する機会は限られている。その中で、既存知識を土台として子どもたちの姿を想像しながら、発達状況に応じた保育を行うためのねらいを設定しなければならない。現場経験の少ない養成段階の実習生にとって難しいのは当然のことである。それでも、保育者として現場に出る前に、指導案を作成するための感覚・わざの基礎を身につけることが最低限必要であると考える。

おわりに

本研究では、「手引き」を作成し、指導案を立案するための「教育実習指導」において試験的に「手引き」を使用した結果を検討した。その結果を踏まえれば、「手引き」の内容を吟味し、改訂を重ねることによって、今後の「教育実習指導」においても活用できる可能性があることが示されたのではないだろうか。以下、「手引き」の改訂の方向性と今後

の課題を示す。

まず、「手引き」の説明当日の実習生の様子からの課題である。当日は、実際の指導案を提示しながら「手引き」を記入するよう指導したが、書き進める際にページを頻繁にめくらなければならない、実習生が混乱してしまっていた。したがって、より単純な作業で書き進めることができるよう、「手引き」を改訂する予定である。

次に、提出された指導案の、立案内容の偏りに関する課題である。具体的には、制作活動を立案した実習生が多く、その内容に個性や創意工夫が見られるものは極めて少なかった。これは、「手引き」の内容として組み込むことに限らず、実習生が幅広い活動内容を想定できるきっかけ作りを「教育実習指導」の中で行う必要があると考えられる。

最後に、「手引き」に沿って指導案を完成させたものの、立案の根拠を述べることができない実習生が多かったことも課題である。指導案の個別添削指導をする際に、「主活動の前にその導入が必要な理由」、「活動ごとの時間設定の根拠」、「同じゲームを複数回続ける理由」などを実習生に問い、回答を求めた。しかし、これらの問いにほとんどの実習生は答えることができなかった。そのことから、立案の根拠については実習生が熟考することなく、感覚的に決めてしまっている現状が明らかとなった。子どもに対してどのような願いを持ち、どのようなねらいのもとに保育をするのか、ということを意識しながら指導案を書き進められるような工夫を今後計画していきたい。

注

1) 「教育実習指導」以外の授業においても、保育士資格関連科目の「保育内容の指導法」や「保育実習指導」の中で、指導案作成に関する授業は行われている。あくまで、「教育実習指導」の内容として行うべき指導の充実が必要であるという立場から課題を設定した。

引用・参考文献

- 1) 大滝まり子「幼稚園実習における指導案作成の留意点」, 『北海道文教大学研究紀要』第32号(2008), pp. 49-56.
- 2) 林富公子・堀井二実「立案指導についての一考察2—保育所実習に取り組んだ学生の立案に対する実態調査—」, 『園田学園女子大学論文集』第45号(2011), pp. 203-212.
- 3) 中山忠政・上田慎二「効果的な『保育実習指導』に関する研究—事前指導における部分保育案作成の試み—」, 『プール学院大学研究紀要』第54号(2013), pp. 275-284.
- 4) 森木朋佳「ふせんを活用した指導案作成方法の研究—保育実習指導における指導案作成上の課題—」, 『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第44号(2014), pp. 21-36.

指導計画案の書き方の手引き

平成 29 年度版

以下に示すものは保育所保育指針を主眼においた指導案の書き方の手引です。「子どもの姿」からはじまり、手順を追って書いていくことで、より具体的で見やすい指導案になるように一つひとつの事象を捉えるようにしてありますが、その故、慣れるまでは読み解くのに時間もかかります。幾度となく練習をすることでより良い指導案となるように研鑽を積みましょう。

まず、指導案の用紙にいきなり書き始めるのではなく、示される枠内に必要事項を書き込んでから指導案に書き落とすようにしましょう。日々の記録もそうですが、まずは子どもの様子をしっかりと捉える事が肝要です。

<子どもたちの様子>

最初に、A 群の「5 領域からの視点」を参考にし、子どもたちの様子を具体的に枠内に記載します。どの項目から選んだか、枠下キーワードに丸をつけましょう。また、B 群の項目も考慮に入れます。A、B 群とも複数の丸がついてもかまいません。訪問時によく観察するか、予め尋ねておきましょう。年齢の発達段階も考慮に入れましょう。

B 群：「興味や欲求」「経験していること」「育ってきていること」
「つまづいていること」「生活の特徴」

A 群

5 領域からの視点（疑問形式）

注）実習先によって「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を参考にしましょう。

A 群：5 領域の内容

「健康」

- ア、保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活できているか。
- イ、いろいろな遊びの中で十分に体を動かしているか。
- ウ、進んで戸外で遊んでいるか。
- エ、様々な活動に親しみ、楽しんで取り組んでいるか。
- オ、健康な生活のリズムを身につけ、楽しんで食事をしているか。
- カ、身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でしているか。
- キ、保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動できているか。
- ク、自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行えているか。
- ケ、危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動できているか。

「人間関係」

- ア、安心できる保育士等との関係の下で、身近な大人や友達に関心を持ち、模倣して遊んだり、親しみを持って自ら関わろうとしているか。
- イ、保育士等や友達との安定した関係の中で、ともに過ごすことの喜びを味わっているか。
- ウ、自分で考え、自分で行動できているか。
- エ、自分でできることは自分でできているか。
- オ、友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合っているか。
- カ、自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付いているか。
- キ、友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わっているか。
- ク、友達と一緒に活動する中で、共通の目的を見だし、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持っているか。
- ケ、良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動できているか。
- コ、身近な友達との関わりを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみを持っていくか。
- サ、友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気づき、守ろうとしているか。
- シ、共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使っているか。
- ス、高齢者を始め地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持っていくか。
- セ、外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持っていくか。

「環境」

- ア、安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにしているか。
- イ、好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しんでいるか。
- ウ、自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付いているか。
- エ、生活の中で、様々なものに触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持っていくか。
- オ、季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付いているか。
- カ、自然などの身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとしているか。
- キ、身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付いているか。
- ク、身近な物を大切にしているか。
- ケ、身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊んでいるか。
- コ、日常生活の中で数量や図形などに関心を持っていくか。
- サ、日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持っていくか。

シ、近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加できているか。

「言葉」

ア、保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自ら言葉を使おうとしているか。

イ、保育士等と一緒にごっこ遊びなどをする中で、言葉のやり取りを楽しめているか。

ウ、保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりしているか。

エ、したこと、見たこと、聞いたこと、味わったこと、感じたこと、考えたことを自分なりに言葉で表現できているか。

オ、したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりしているか。

カ、人の話を注意して聞き、相手に分かるように話せているか。

キ、生活の中で必要な言葉が分かり、使えているか。

ク、親しみを持って日常のあいさつをしているか。

ケ、生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付いているか。

コ、いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにしているか。

サ、絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わっているか。

シ、日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わっているか。

「表現」

ア、水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しめているか。

イ、保育士等と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりして遊べているか。

ウ、生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気づいたり、感じたりして楽しめているか。

エ、生活の中で様々な出来事に触れ、イメージを豊かにしているか。

オ、様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わっているか。

カ、感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりしているか。

キ、いろいろな素材や用具に親しみ、工夫して遊べているか。

ク、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わっているか。

ケ、かいたり、つくったりすることを楽しみ、それを遊びに使ったり、飾ったりしているか。

コ、自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わっているか。

<子どもたちの様子>①

A群（健康 人間関係 環境 言葉 表現）

B群（興味や欲求 経験していること 育ってきていること つまづいていること 生活の特徴）

<子どもたちの様子>②

A群（健康 人間関係 環境 言葉 表現）

B群（興味や欲求 経験していること 育ってきていること つまづいていること 生活の特徴）

<子どもたちの様子>③

A群（健康 人間関係 環境 言葉 表現）

B群（興味や欲求 経験していること 育ってきていること つまづいていること 生活の特徴）

<子どもたちの様子>④

A群（健康 人間関係 環境 言葉 表現）

B群（興味や欲求 経験していること 育ってきていること つまづいていること 生活の特徴）

<子どもたちの様子>⑤

A群（健康 人間関係 環境 言葉 表現）

B群（興味や欲求 経験していること 育ってきていること つまづいていること 生活の特徴）

<中心になる活動>

「子どもたちの様子」から保育士の願い（育ってほしいこと、経験してほしいこと、身につけてほしいこと等）を元に「中心になる活動」を設定し、枠内に記載しましょう。

「中心になる活動」

<ねらい>

「中心になる活動」の設定理由、すなわち本活動で達成してほしいものを前記の「子どもたちの様子」を参考に2つ程度、枠内に記載しましょう。設定理由を書く際には下記のC群を参考にします。また、どの項目から選んだか、枠の下のキーワードに丸をつけましょう。

C群：「育ってほしいこと」「経験してほしいこと」「身につけてほしいこと」「その他」

<ねらい>①

C群（ 育ってほしいこと 経験してほしいこと 身につけてほしいこと その他 ）

<ねらい>②

C群（ 育ってほしいこと 経験してほしいこと 身につけてほしいこと その他 ）

<指導案記入その1>

《「子どもたちの様子」から「ねらい」まで》

ここではじめて実際の指導案の用紙への記入となります。

手順1：「中心になる活動」「ねらい」を定める際に最も参考にした「子どもたちの様子」を
 具体的かつ簡潔に2つから3つ選び指導案に記載してみましょう。

手順2：「中心になる活動」を具体的かつ簡潔に指導案に記載してみましょう。どんな活動か
 誰でもわかるように書きましょう。

手順3：「ねらい」を具体的かつ簡潔に指導案に記載してみましょう。

<環境の構成、子どもの活動、実習生の活動と留意点>

「中心になる活動」における実際の子どもの動きを書いていきます。

まず大まかな活動の流れを下の枠に書いてみましょう。○の後に書きます。

例：○折り紙でひな人形を折る→○色鉛筆で顔を描く→○画用紙に貼る→○クレヨンでひな人形の周りの絵を描く

活動①

○



活動②

○



活動③

○



活動④

○

上に掲げた活動にスムーズに（興味関心を持って）入るための導入を下の枠に書いてみましょう。

○の後に書きましょう。例：○「ひなまつり」の歌を歌う

導入

○

活動における子どもたちの動きを予想し、箇条書きで細かく書いていきましょう。その際に、上記の活動の流れの通りにならない場合の子どもの動きもなるべく予想して書いてみましょう。

この項目は・(点)の後に書きます。まずは活動①から書いていきます。

例：・実習生の手本を見ながら折り紙を折っていく、・左右逆に折ってしまう子がいる、・わからない所を友達と教え合う姿がある、

「活動①における予想される子どもの動き」

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「活動①における予想される子どもの動き」の中での実習生の動きを書いてみましょう。必ずしも子どもの動きに連動させなくてもかまいません。この項目も・(点)の後に書きます。

例：・子どもにわかりやすいように画用紙を使って前で折って手本を見せる、・折る手順を一つずつ子どもに見せながら一緒に折り進める、・折り方が合っているかどうか手本とよく見比べて自分で確認できるようにする、・好きな色が自分で選べるよう多めに折り紙を準備しておく

「活動①における実習生の活動と留意点」 ・ ・ ・ ・ ・
--

活動①に関する環境構成を下の左側の枠に書いてみましょう。保育室や園庭など、実際に活動する場所の間取り（テーブルや椅子、大型遊具の位置など）や子どもや実習生の立ち位置、画用紙などを使う場合には最初にどこに置いておくかなど、子どもの活動のしやすさを考えて書きましょう。

※実習施設によって、「保育士」「保育者」「教諭」「実習生」など書き方が違うのであらかじめ確かめておきましょう。

「環境の構成」	
---------	--

活動に必要な用具、準備物があれば具体的に書き出しておきましょう。

例：はさみ、のり、クレヨン、白画用紙、折り紙（〇色〇枚）

注）その他に、CD、運動器具、楽器などがあげられますが、常設物（ピアノ、すべり台など）は準備物にあげる必要はありません。また、文字で書けないものは絵で描く事もあります。

準備物 ・ ・ ・	・ ・ ・	・ ・ ・
--------------------	-------------	-------------

同じように活動②③④における「予想される子どもの動き」「実習生の活動と留意点」を書いてみましょう。活動が進むにつれ、環境構成（場所、物の位置、人の位置など）も変わるようであれば「環境の構成」の右の枠に書き足しましょう。予想される子どもの動きから、見直したい環境構成、加えておきたい準備物があれば書き足したり書き直したりしていきましょう。

例：のりを使った後すぐに手を洗いに行く子がいる→手拭き用の濡れタオルを準備物に書き足す。

「活動②における予想される子どもの動き」

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「活動②における実習生の活動と留意点」

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「活動③における予想される子どもの動き」

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「活動③における実習生の活動と留意点」

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「活動④における予想される子どもの動き」 ・ ・ ・ ・ ・
「活動④における実習生の活動と留意点」 ・ ・ ・ ・ ・

「導入」における「予想される子どもの動き」と「実習生の活動と留意点」をそれぞれ書きましょう。

「導入における予想される子どもの動き」 ・ ・ ・
「導入における実習生の活動と留意点」 ・ ・ ・

最後に本活動のまとめを書きます。活動を終えた子ども達の心情を捉えたり、次の活動への期待を持たせたりしてまとめましょう。

「まとめにおける予想される子どもの動き」 ・ ・ ・
「まとめにおける実習生の活動と留意点」 ・ ・ ・